



子どもの自主性を尊重し育てる

朝日ホッケースポーツ少年団 & えちぜんホッケースポーツ少年団

ホッケーの町として知られる越前町(旧朝日町)には、現在6人制ホッケーのスポーツ少年団が2団体ある。「朝日ホッケースポーツ少年団」と「えちぜんホッケースポーツ少年団」。朝日スポ少は、小学1年生から6年生までの男女合わせて43人の団員全員が越前町民。えちぜんスポ少は、鯖江市からもチームに参加する1年生から6年生までの47人からなる。鮮やかな青色の人工芝が印象的な県立ホッケー場で、現在は同じ時間帯で練習している。

朝日スポ少の今年度の目標は「周りを見る、仲間を増やす」。団員が自ら

考え話し合って決定したという。監督の山田真也さん(越前町)は、「試合に勝つ」といったものではなく、チームスポーツの本質を捉えた意見にまともったことに驚いたという。ウォーミングアップも男女のキャプテンが中心となって自分たちでメニューを考えている。「ホッケーは試合展開が速く、指示を待っているのは反応が遅れることがある。自分たちで考える力が必要」と山田監督。ゴール前練習に積極的に取り組んでいた6年生の増永碧(あおい)さんは「大会の試合の中で点数を決められたときが一番楽しい」と話す。

「ワンチーム」でホッケーを楽しむ

えちぜんスポ少のスローガンは「ワンチーム」。団員はもちろん、指導者や保護者からなる育成会、地域の人々に至るまでみんなが協力できる形を目指す。そのためにも、あいさつや感謝の気持ちを忘れず、応援してもらえるチームにしていけるのが目標だ。監督の松島孝治さん(越前町)は「なによりもホッケーの楽しさを感じて、協力して楽しむことのすてきさを知ってほしい」と話す。優秀な選手だった兄に憧れてホッケーを始めた5年生の中西奏翔(かなと)さんは「走らないといけないのが大変だけど、点を取り合うのが好き。1点でも多く試合で決めた

い」と意気込みを聞かせてくれた。両チームとも、課題は新しい団員の確保だそうで、同町の小学校を中心に体験会を開くなどして精力的にホッケーの魅力をアピールしている。ホッケーの町を支える2チームを、ぜひ、多くの人に応援してほしい。



朝日スポ少の皆さん

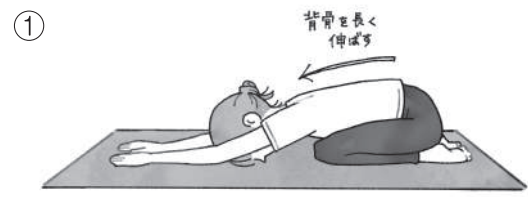


えちぜんスポ少の皆さん

やってみよう!

お家でヨガ

～下向きの犬のポーズ(ダウンドッグ)～



① 正座になり、両足の親指をつけます。両手を肩幅に開いて体の前に伸ばし、上半身を前へ倒していきます。おでこを床につけます。膝が胸の外側にくるように両膝を少し開き、背骨を長く伸ばします。



② 背中を長く伸ばしたまま、息を吸いながら四つん這いになり、足先を立てます。



③ 両手で床を押して逆V字になるように、お尻を持ち上げます。背中を長く伸ばし、頭は自然に下げます。

④ そのまま呼吸を深めながら30秒～1分程度キープします。

POINT

背中が丸まらないように注意。膝を軽く曲げたり、かかとを浮かせたりして、背中を長く伸ばすことを優先しましょう。



気分をリフレッシュできるほか、肩こり、腰痛の改善に効果的です。また体幹の強化や、脚の引締め効果も。1回数分でも十分効果があります。週2～3回の継続がおすすめです。

読者からのお便りコーナー



今年のクリスマスに産まれてくる予定の孫にひと言元気いっぱい生まれてきてね! みんな待ってるよ～! (鯖江市 60代 女性)

息子が飼育する熱帯魚にひと言私が行くとツンツンとやって来てくれるクロちゃん。「もう懐いたんや!」と喜んでいて、息子いわく「警戒して威嚇してるだけだから、あまり刺激せんといて」と。…クロちゃん、本当なの? (福井市 60代 女性)

力士の北乃庄さんにひと言郷土からのただ一人の大相撲力士として、大活躍を期待しています! (高浜町 50代 女性)

全日本人へひと言「ありがとう!」「ごめんね!」を心から言えれば、世の中もっと平和になるはず。 (越前町 60代 男性)

10年後の妻にひと言いつもありがとう。「それ、さっきも聞いたよ」と笑いながら同じ話を聞いてくれるけど、今後もし私が少し頑固になっていたら今と同じように優しく軌道修正してほしい。これからも仲良く最高の親友でいてください。 (越前市 60代 男性)

夫にひと言夕食後に食べるおやつを週に3回は買ってきてくれるね。「太るー!」と言っているけど、感謝してるよ。 (坂井市 50代 女性)

同僚中の彼氏にひと言いつも料理を作ってくれてありがとう! どれも美味しい行動自体はうれしいんだけど、たまには私にも作らせて!! (大野市 30代 女性)

投稿募集

投稿してくださった皆さま、ありがとうございます。今回のテーマは「夏の思い出」です。

※内容を変えない範囲で手直しすることがあります。ご了承ください。

古民家カフェから広がる、循環する暮らし

永平寺町

永平寺町の小さな集落に佇むカフェ「晴卜雨(はれとあめ)珈琲」。築約90年の古民家を、店主の芳沢郁哉さん(33)と有希さん(30)夫妻が約1年半かけて改修。人々が気軽に集い、非日常を味わえる場所としてオープンした。

店内には趣のある木のテーブルや椅子が並び、どこか実家に帰ってきたような懐かしさがある。リサイクルの家具や古い木材を積極的に活用しているという。「昔の物は質が良く、見た目もスタイリッシュ。現役として活躍する場を作ることで、その価値を知ってもらいたい」と芳沢さんは話す。

提供するスイーツやドリンクでこだわっているのは、自分で育てた平飼いの鶏の卵を使用すること、体に優しい材料を選ぶこと。白砂糖を使わず、北海道産のこだわりの小麦を使った

プリンやシフォンケーキは、卵本来の美味しさが味わえる。自家製のスパイスで作ったコーラやジンジャーエールもこの店ならではの。

芳沢さんは鯖江市出身。東京で4年間働いた後、日本一周の旅に出た。そこで出会ったのが、平飼養鶏を営む農家だった。卵がどのように私達のもとへ届くのか、その背景を知ったことで、効率だけを求めるのではなく、「体や地球にとっていいものを選び暮らし」に豊かさを感じるようになったという。大切にしているのは「循環」という考え方。空き家を次の世代へつなぐこと。古い家具を活かすこと。捨てられるおからや米ぬかを鶏が食べて卵を産むこと。その一つ一つが、暮らしの中にある循環だという。「安い卵を選ぶんじゃなく、幸せな環境で育てられた鶏が産んだ、環境にもいい卵を購入してみようとか、家庭菜園を



してみようとか、考えるきっかけの場所になったら嬉しい」と芳沢さん。

新たな暮らしの視点とその心地よさを感じられる場所。ぜひ足を運んでみては。



はれ あめコーヒー 晴卜雨珈琲 ①永平寺町吉峰13-7 ②不定期 インスタグラムにて要確認 ③7台(住所:吉峰15-17) @HARETOAME_COFFEE



耕作放棄地が地域住民の手で絶景に 花摘み会開催 1万本超のひまわりが咲き誇る

坂井市

毎年夏になると、県内各地でひまわり畑のニュースが報じられる。坂井市坂井町下兵庫のえちぜん鉄道三国芦原線「下兵庫こうふく駅」東側に広がるひまわり畑「花木園」も、毎年一斉に花が咲きそろう、人々の目を楽しませている。

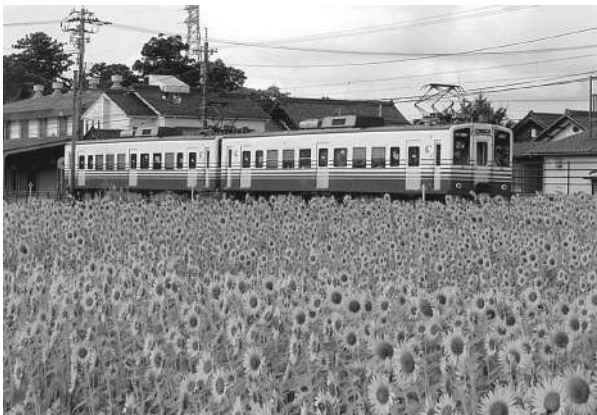
この美しい景観を支えているのが、地元の「下兵庫むらづくり委員会」。「環境保全活動」のひとつとして、10

年以上継続している。きっかけは、耕作放棄地にさまざまな農機具から果ては船まで、産業廃棄物が山積みになっていたことだった。「この荒れ果てた場所を何とかしたい。集落の景観を良くしたかった」と、取り組みを開始した当時の委員長、竹内紘一さん(85)は振り返る。毎年8月13日は、地区住民が盆の墓参りをする日だ。そこで、盆の花として活用できるよう

花摘み会

8月11日(火・祝) 午前8時～午後5時

地区住民に限らず誰でも参加可能で、無料。ハサミなどは各自で準備。駐車場は準備されているが、詳細は会場で問合わせを。補助金運用の活動のため、参加人数把握の資料として会場での記帳が必要だ。なお、ひまわりは花摘み会以外の日でも自由に摘んで持ち帰って良いとのこと。



下兵庫こうふく駅の周辺なので電車がスピードを落として走行する。ひまわりと電車を一枚の絵に収められる絶景スポットとして写真愛好家からも人気だ(写真は昨年のも)

に、ひまわりを植えることに決めた。借り入れた905平方メートルの耕作放棄地に、台風などで倒伏しにくいよう、やや低めの背丈の品種を選んで毎年6月に種まき。畝立てや、雨が少ない時期の水やりなど、同会の有志が手塩にかけて世話を担っている。現在の委員長を務める鈴木広治さん(67)は、「活動を任されて世話をする中で、景観や花摘み会について、たくさんのうれしい声をもらうよう

になり、やりがいを感じている。地域に定着してきたこの取り組みを、なんとか次の世代にも引き継いでいきたい」と、未来への思いを語ってくれた。

今月の読者アンケート

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。

方 ①住所、氏名、年齢、性別、電話番号 ②現在購読の新聞名 ③さん 法 ぽみちへのご意見・ご感想 ④読者からのお便りコーナー、テーマ「夏の思い出」への投稿を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

■はがき [宛て先] 〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内 「さんぽみち8月号アンケート」係

■メール



osanpo@fukuikoho-c.co.jp ID: @Q59fzwww

投稿フォームから

■LINE



■ホームページ



※応募の際は「さんぽみちアンケート係」と入力して下さい

夏の思い出お写真もお待ちしております!!

スタッフ日記

夏祭りの屋上で、家で、カフェやレストランでと、暑くなるに連れてかき氷を食べる機会が増えますね。子どもの頃は、かき氷手に花火を見るのがお祭りの醍醐味。ただ最近は、打ち上げを待つ時間のお供で、始まったら動画を撮るのがメインになりました。今、屋外でかき氷を食べる機会は、施設鬼法要後のカフェタイムくらいでしょうか。エアコンがない場所で約1時間耐えた後の氷の冷たさが身体中に染み渡り、一気に汗が引いていきます。加えてシロップの甘さがぼんやりしていた頭を活性化してくれるので、最強の組み合わせです。夏に外で過ごす際には、かき氷が必須。その時には、ぜひ紹介したお店に行ってみてくださいね。